故大上宇一先生寄稿論文目錄（I）

宍粟郡安富中學校　建　部　惠　潤

西播の一隅にかくれて，その生涯を博物學の研究にさゝげた故大上宇一先生が逝去されて早既に10年の年月が經過した。私は昭和10年8月初めて先生を訪ねて御教示を仰いだ者であるが，先生の逝去を知つて以來，鄉土先覺の業績顯彰の念願を持つていたが，今回嗣子又夫氏の御好意により業績調査を開始する運びとなつた。即ち去る2月13日揖保郡新宮中學校教官杉田隆三，小谷薫兩氏の御協力によつて第一回の調査を行つた。拜見した遺品の中に「寄書雜誌誌」と題する半紙21枚綴りの寄稿論文目錄があつた。表紙裏には指導を受けた學者，標本交換を行つた學友の氏名及交渉開始年時，裏表紙の內側には採集地と採集年時が書かれてある。今回これをかゝげて調査第一回の報告とする。これら雜誌の中には得難いものが多く，又遺品中すでに散失してゐるものもあるやに思われるから，御所藏，所在御知りの方は何卒御報知の勞を給らんことを切望する次第である。

(Feb. 20. 1949)

（1）東洋奇術新報　東洋社發行

3號（明治23.9）——癲病速治法に就て答ふ。醬油のカビを防ぐ法に就て，毛虫を防ぐ法に就て，避姙法の答，毛虫の毒に就て問ふ。

6號（明治23.12）——蝮に嚙れたる卽効藥

8號（明治24.2）——煉珊瑚珠製造の答。

9號（明治24.3）——脫肛を治法に答ふ。

10號（明治24.4）——煙草中のニコチン除法答

11號（明治24.5）——寢言の治法に答ふ，血液清淨法の答，健忘治法の答。

（2）産業時論　東京小石川區指ケ谷町産業時論社發行

21號（明治24.9）——兎の害を防ぐ法，竹林の肥料に答ふ，筍の虫害豫防法，桑虱の驅虫法，煙草の肥料，大麥の原肥料，大麥一段歩に3石の收獲法，大麥を每年同地に栽るに種を變る可否。

22號（明治24.9）——里芋の貯藏法，年々同所に栽るべからざる作物，酢製造法，礬石毒豫防法，牧草の良種。

23號（24.10）——開墾地の樹根斷法，綿と煙草に就て，風信（播磨の）。

25號（明治24.11）——播磨國通信（强風）兵庫縣の萎縮稻，兵庫縣地價修正陳情主旨。

26號（明治24.11）——甘露子の作法，珈琲樹，染物藍出法，甘藷貯藏法，陰地の作物。

27號（明治24.12）——甘藷及大根に苦味の原因，北越の冬仕事，春鋤と冬鋤の利害。

28號（明治24.12）——蛞蝓不生法，蝮を除く法，牧場の鹿虱を除く法，山に行つて鹿虱の寄附かぬ法，ヌカダニ衣服に多く附たる時，ダニの嚙附たるに，雪隱虫を防ぐ法。

（3）日本農業新誌　博文館發行

1號（明治25.1）——各種灰の分析，風害後の桑芽，流動物の比重，播磨通信。

2號（明治25.1）——人害動物驅除法，桐下の桑，猪鹿の防禦法，依蘭苔の成分，肥桶の蛆。

3號（明治25.2）——瓜哇薯より澱粉を製する法，簡便なる葛の製粉法，烏瓜と葛の比較。

4號（明治25.2）——苹果の害虫驅除法，麥の

乾燥惡きは蛾に化する理由，大根の薹の立つ理由，杉苗仕立法。

5號(明治25.3)——人害動物驅除法，尺蠖虫の生棲の件，尺蠖虫驅除法，小鳥の害を防ぐ法，粟栽培法，播磨通信。

6號(明治25.3)——除草，風打の方法，紫雲英の件。

9號(明治25.5)——人害動物驅除法，粘土砂土に就て，古俵の害少き理由，外國へ輸出の穀類統計に就て，苗代の田螺驅除及豫防法，米の搗減に就て，降雨稻に害を及ぼす時期，麥の分析，籬用の植物に就て。

10號(明治25.5)——農家野菜の効用，ポスター植物，水蛭驅除法，土質鑑別法，蚕桑の方言，良桑の方言，地質粗にして黑土淺く且つ乾燥せる地に適する桑。

11號(明治25.6)——百合栽培法，尾長鷄，雞糞肥料，糞利用法，竹根の田畑へ入るを防ぐ法，柿の毎年結果する法，水田の蛙を除く，蚯蚓の驅除法，椎蕈作り方，肥壺の石灰叩の件。

12號(明治25.6)——植物害動物驅除法。

13號(明治25.7)——筍の皮の利用法，筍を貯ふる法，苗代の蛙害を防ぐ法，晴雨計に就て，播磨通信。

14號(明治25.7)——農科大學々生八道君に質す，家畜人類血族交配の結果に就て，葎草，まつばうどの栽培法，密柑の皮の利用法，牛のこし病，馬鈴薯害虫の件，日本及支那の柑橘類，植物分類科目の件。

15號明治25.8——麥の黑奴の件，桑芽の內四五本枯死する件，苗代の水草の件，蝸牛卵子の件，桑幹に虫糞の理由，スギナの害を防ぐ法，雞糞有害の件，菊地君の質問に答ふ。

16(號明治25.8)——植物害動物驅除法，梨の黴菌。

17號(明治25.9)——植物害動物驅除法。

19號(明治25.10)澤野先生に教を乞ふ。

21號(明治25.11)——種子發芽力保存年限實驗，播磨通信。

22號(明治25.11)——萎縮稻の原因に就て，植物害動物驅除法。

24號(明治25.12)——甘柿の澁柿に變りたるを復す法，石灰施用法に就て，雞卵の少きを產したる理由，農業雜誌の種類。

2卷1號(明治26.1)——害動物驅除法，植物害動物驅除法。

3號(明治26.2)——ブリキ細工をなす器具と藥品，くろぼこ質の野に適する作物。

6號(明治26.3)——植物病理(甘露の說)

9號(明治26.5)——本草綱目の代價に答ふ，植物分類科名と1.2の種類，昆虫詳細の書，植物學研究に尤も適當の書類。

10號(明治26.5)——土壤の分析法に就て。

11號(明治26.6)——植物病理(桑樹萎縮病に就て)

13號(明治26.7)——牛疫と農界。

14號、明治26.7)——作物害菌と氣象の關係に就て，棕櫚の培養法及び其利得，內地の動植兩雜誌の發刊所，柿栗等の結實隔年なるに就て，植物分科と1.2の種類，草石蚕の件。

17號(明治26.9)——人爲降雨法に就て。

18號(明治26.9)——稻種子，水撰の起源に就て。

19號(明治26.10)——竹の結實の件。

20號(明治26,10)——將して飢年に天然の食物あるか，關東の一水吞君の厚意に謝す。

22號(明治26.11)——將して飢年に天然の食物あるか，關東の一水吞君の答に答ふ。

24號(明治26.12)——將して飢年に天然の食物ありや。

3卷2號(明治27.2)——蚜虫の活用(浚食子，ナラの餅)

3號(明治27.3)——蚜虫の活用(ナラガウ，卵形蝕，カナギ蚜虫，ネコアシ，艾のワタ，ツ

ケの蝕。)

4號(明治27.4)——蚜虫の活用(ツツジの餅,イヌノチンボ,トスベリ)。

5號(明治27.5)——各地有益植物名稱。

6號(明治27.6)——蚜虫の活用(蚊子樹マンナ,紫鋤。)

7號(明治27.7)——天蚕飼育の植物に就て。

8號(明治27.8)——植物害菌と氣象の關係。

10號(明治27.10)——蕈菌の中毒注意。

11號(明治27.11)——稻類の歴史に就て。

4卷1號(明治28.1)——泊英蘭の眞僞に就て,日本農業新誌の改社を祝す。

2號(明治28.1)——大豆作の生理に就て。

(4) 地學雜誌 東　京

44號(明治25.8)——播磨洪水報知。

45號(明治25.9)——播磨洪水報知后報。

47號(明治25.11)——各國雷鳴の比準。

48號(明治25.12)——但馬の隕石,薩摩の隕石に就て。

50號(明治26.2)——山崎町附近の地形。

51號(明治26.2)——2月19日中國の地震に就て。

61號(明治27.1)——播津國第三紀の2.3。

69號(明治27.9)——地方通信。

71號(明治27.11)——土殷蕚の答(高師小僧)

73號(明治28.1)——化石の方言。

74號(明治28.2)——地方通信(小佛石生層の燐灰石,中國冬旱)

75號(明治28.3)——化石の古名。

76號(明治28.4)——古書に記したる化石名。

77號(明治28.5)——播磨地方の瀑布の地質。

78號(明治28.6)——第四內博見聞錄。

92號(明治29.8)——日の暈の雨兆となりし比例。

93號(明治29.9)——月の暈の雨兆となりし比例。

95號(明治29.11)——中國俚諺氣象の2.3。

(5) 京都家禽新報 京　都

39號(明治30.4)——草花雜俎。

40號(明治30.5)——同　上。

41號(明治30.6)——雞類の動物質食物。

42號(明治30.7)——草花雜俎。

43號(明治30.8)——同　上。

(6) 農業雜誌 東　京

452號(明治25.7)——畜牛のため。

(7) 農民の友

30號(明治25.)——畜牛のため。

(8) 獵の友 東京獵友社發行

17號(明治26.2)——播磨國獵信。

18號(明治26.3)——狸の捕獲法に就て。

19號(明治26.4)——播磨の釣餌一班。

21號(明治26.6)——藥師,獵士の狸貉說の質問に答ふ。

(9) 植物學雜誌 敬業社發行

105號(明治28.11)——播磨よりの植物通信。

114號(明治29.8)——同　上。

133號(明治31.3)——播磨通信。

232號(明治39.5)——中國の植物に就いて。

編　集　後　記

△皆樣の御協力によりまして物價高の今日にも拘らず第3號を御送りすることが出來たことを喜びたい。

△瀧理學博士,三木理學博士及び藤田醫學博士は御多忙の處,特に本會のために玉稿を御寄せ下さいました,會員諸氏に代り厚く御禮申し上げたい。

△又本號刊行に當り,王子建築株式會社社長曾我熊太郎氏は本會の主旨に賛同され多大の御支援を得た,ために諸氏に本誌を御分けすることが出來ました,每號の御好意に重ねて感謝したい。

△都合によりまして本號より,高田印刷所に於て刊行することに致しました,實は會の會計が貧弱でありますので1時中止をせねばならぬかと心配して居りました處,同印刷所重役大野虔三氏の御厚意により全く利益を度外視して學問のために出版して戴きました,會員諸氏と共に厚く御禮申し上げたい。

△次號は夏休み前に發行したいと存じますが,何時も赤字續きで困つて居りますから會費未納の方は速に御送金願い度い。次號は6月上旬原稿締切,7月中旬發行の豫定でありますから多數御投稿下さいます樣切望致します。